



なぞって練習

源氏はほほえんでいた
が、もつと詳しく知り
たいと思うふうである。
自重をなさないけれ
ばならない身分は身分
でも、この若さと、
この美の備わった方が、
恋愛に興味をお持ちに
ならないでは、第三
者が見ていても物足ら
ないことである。恋愛
をする資格がないよう
に思われているわけわ
れでさえもずいぶん女
のことで、好奇心が動
くのであるからと惟光
は主人をながめていた。

■参考

※惟光【これみこ】

(青空文庫のフリガナより)